

子どもの貧困問題の理解者・支援者を増やす為の学習活動推進事業

日本生活協同組合連合会

子どもの貧困問題への理解を広げ 支援ネットワークの構築をめざす

日本では、7人に1人の子どもが相対的貧困状態にあるとされています。こうした状況に対して全国的に、子ども食堂や学習支援など様々な取り組みが進んでいますが、取り組みに参加する人材がまだまだ不足しています。

そこで、子どもの貧困問題への理解をより多くの方々に広げるために、主体的に学習会を開催する人を「子どもの未来アンバサダー」として位置づけ、アンバサダーを育成し、地域に支援者のネットワークを広げることを目的として、この事業を実施しました。

支援者を養成する講習会を全国各地で実施

まずは、学習会を行う地域を対象とした「子どもの未来アンバサダー講習会」を2019年10月までに全国6か所（宮城、東京、愛知、岡山、愛媛、福岡）で

助成年度 2018年度～2019年度

助成決定額 1年目500万円
2年目490万円



のべ10回行いました。講習会には行政、社会福祉協議会、大学生、民生委員、NPO、生協関係など多様な主体が参加し、各地での実践事例や今後の学習企画を考えるワークショップなどの学びから、地域で学習会を推進するきっかけを掴んでいただきました。

この2年間で576名のアンバサダーが誕生し、各アンバサダーに対して、次の3つの支援を継続的に行いました。

- ①学習ツールの無償提供
- ②学習会開催のコツを毎月メールニュースで周知
- ③学習会開催にあたって、要望に応じた相談対応や支援人員派遣

各年度末に開催した「子どもの未来アクション活動交流会」では、アンバサダーによる取り組み事例報告や有識者による基調講演、アンバサダーおよび賛同団体による公開ディスカッションなどが行われ、参加者にとって貴重な学習と交流の機会となりました。

全国各地に誕生したアンバサダーが、それぞれの

地域で計222回の学習会を実施し、1万1,465人が子どもの貧困問題について学びを深めたことで、地域に支援者のネットワークが広がっています。

社会全体で子どもを育てる機運を醸成

コロナ禍をふまえ、在宅スタディー、オンライン学習会などの新たな形を提案しながら、今後も「学びから実践」へと繋がる活動の推進を支援していきます。

また、学習会に参加した方から「知ったからには何か関わりたい」という声をいただくことが多くなっています。

学びの次のステップとして何ができるか、より具体的に支援するような選択肢とその行動支援が今後の重要な課題となっています。

担当者の声



伴 資之さん

日本生活協同組合連合会
組織推進本部
社会・地域活動推進部 組合員活動グループ
子どもの未来アクション担当

生協の垣根を越え、全国の団体と繋がり「支援者を支援する人を増やす取り組み」として多くの方に参加いただきました。助成事業を通して、見えない子どもの貧困の実態を改めて知り、多くの仲間と支援への第一歩を踏み出す人を増やすことができたと考えています。今後も、貧困をなくすためにできることを模索したいと考えています。